



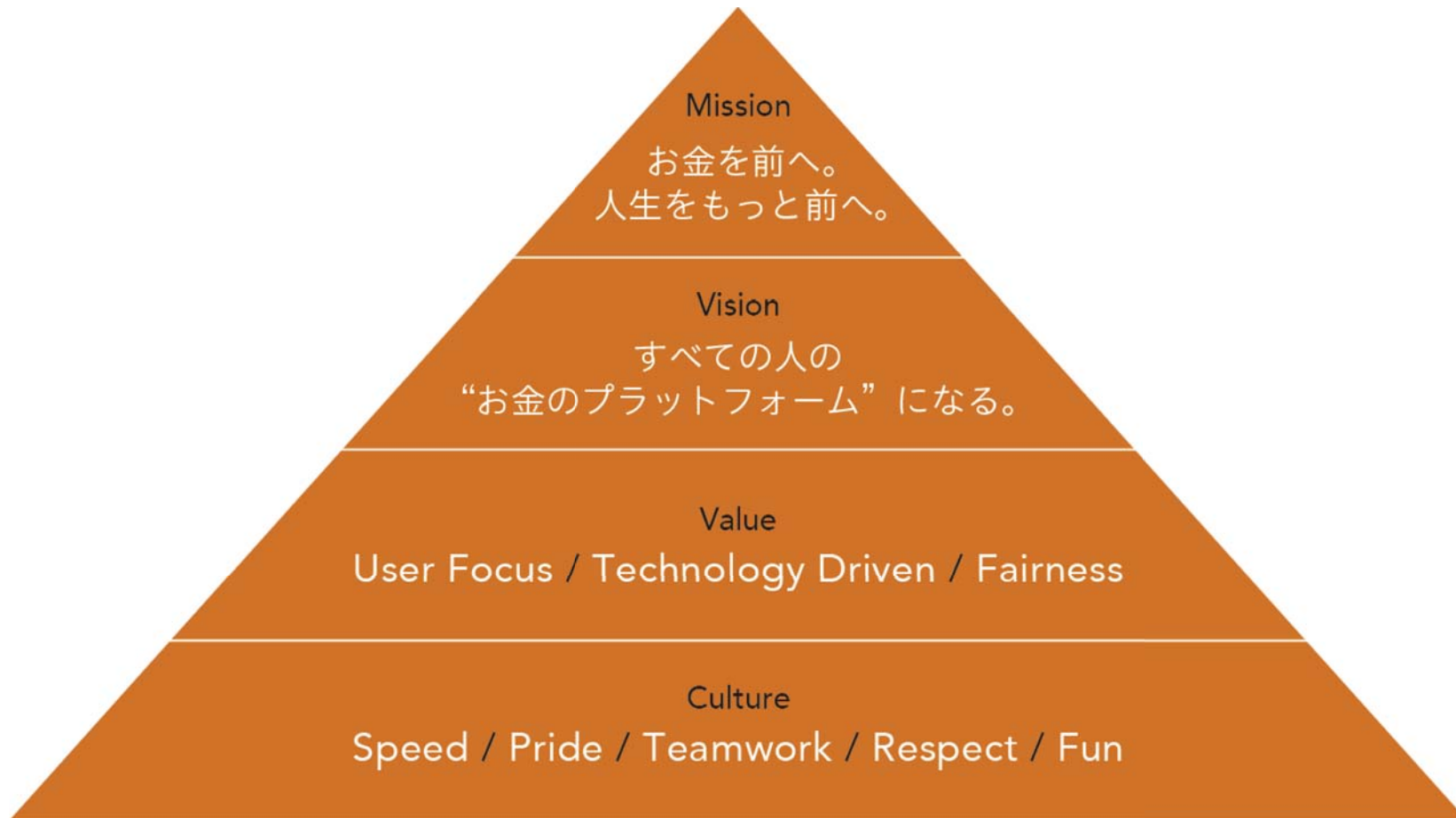
株式会社マネーフォワード 金融EDI情報の利活用に向けて

株式会社マネーフォワード

2020.1

マネーフォワードのご紹介

Mission / Vision / Value / Culture



主要サービス一覧



お金を前へ。人生をもっと前へ。

Money Forward Business

ビジネスの成長を加速させる。

Money Forward クラウド

バックオフィス向け
業務効率化ソリューション

Money Forward クラウド会計

Money Forward クラウド確定申告

Money Forward クラウド請求書

Money Forward クラウド給与

Money Forward クラウド経費

Money Forward クラウドマイナンバー

Money Forward クラウド資金調達

Money Forward クラウド勤怠

STREAMED

記帳代行自動化サービス

Manageboard

クラウド経営分析ソフト

Money Forward Home

すべての人生を、
便利で豊かにする。

Money Forward ME

お金の見える化サービス

Money Forward Mall

金融商品の比較・申し込みサイト

MONEY PLUS

くらしの経済メディア

SiraTama

自動貯金アプリ

mirai talk

ライフプラン診断*

tockpop

クーポンアプリ

Money Forward X

パートナーと共に、
新たな金融サービスを創出する。

Money Forward for OO

金融機関お客様向け自動家計簿・
資産管理サービス

通帳アプリ

金融機関お客様向け通帳アプリ

MF Unit

金融機関のアプリへの
一部機能提供

BFM

法人向け資金管理サービス

Money Forward クラウド for OO

金融機関お客様向けクラウドサービス

Money Forward Finance

お金をいい方向へと動かす。

MF ESSAI

企業間後払い決済サービス

Money Forward BizAccel

オンライン融資サービス

Money Forward Synca

成長企業向けフィナンシャル・
アドバイザーサービス

* mirai talkは年内に店舗閉鎖予定

マネーフォワードの
これまでの取り組み

金融EDI情報の利活用の検討例

1 売掛金消込サービスでの利活用

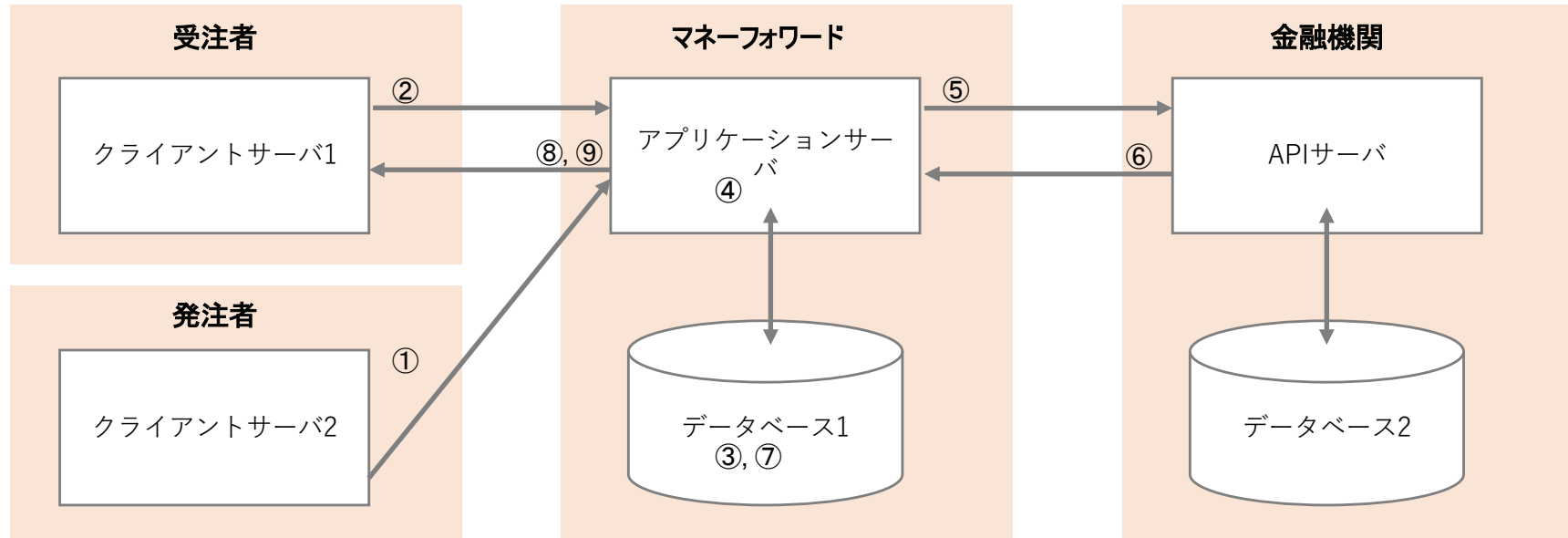
2 トランザクションレンディングでの利活用

3 ファクタリングでの利活用

4 経営支援での利活用

売掛金消込サービスでの利活用検討

売掛金消込に関連する特許を取得



《従来技術とその課題、解決手段》

従来、銀行振込による決済は、Webアプリケーション等で銀行振込用データ(以下、「FBデータ」)を作成し、本FBデータをインターネットバンキング(以下、「IB」)等を用い金融機関へ送信する方法により行われています。この方法には、IBへのアップロードが煩雑、また、受発注情報と振込申請データが紐付いていないため、実際に入金が行われるまで消込が行えないといった課題がありました。

本発明では、振込申請をWebアプリケーションサーバ上で完結し、振込申請の手間を軽減させるとともに、受発注情報と振込申請情報の紐付けを行うことで、振込申請段階での事前消込を可能にするものです。

《発明の技術内容》

- ① 発注情報(支払予定情報)を登録。
- ② 受注情報(入金予定情報)を登録。
- ③ データベース1にて発注情報(支払予定情報)と受注情報(入金予定情報)が紐付けられている。
- ④ アプリケーションサーバにて支払用データを生成。
- ⑤ APIサーバをコールして支払申請。
- ⑥ 支払申請結果を応答。
- ⑦ データベース1にて受発注情報と支払申請結果が紐付けられている。
- ⑧ データベース1の紐付けをもとに、受注者に入金予定通知を行う。
- ⑨ 入金予定通知と受注情報(入金予定情報)により事前消込を行う。

トランザクションレンディングでの利活用検討

融資審査にあたって請求情報等も活用

Money Forward BizAccel

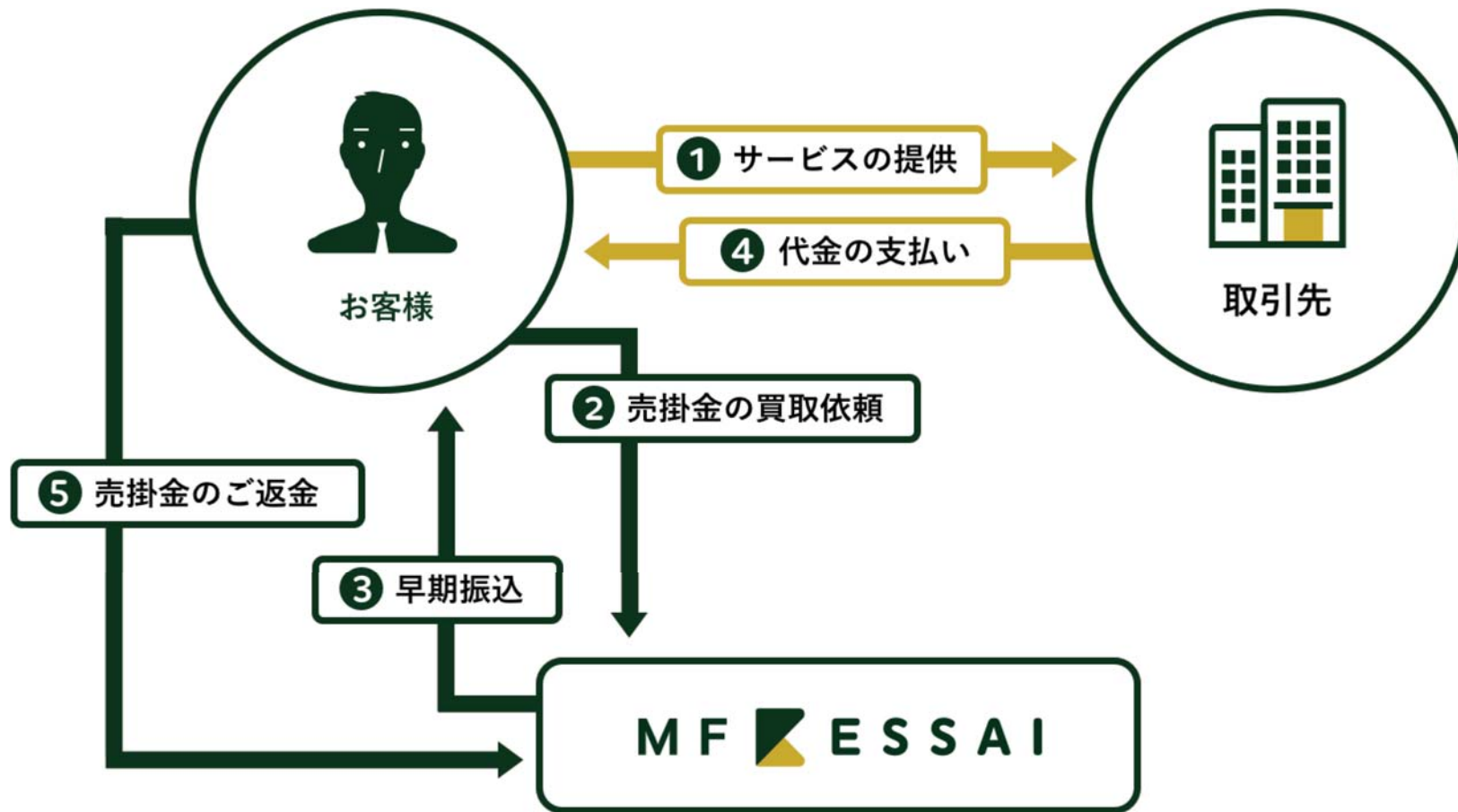
マネーフォワードクラウド会計のデータを活用した
中小企業向けオンライン融資サービスです。

- ✓ 決算書、登記簿謄本は提出不要
- ✓ 保証人や担保は不要
- ✓ スピーディーな入金



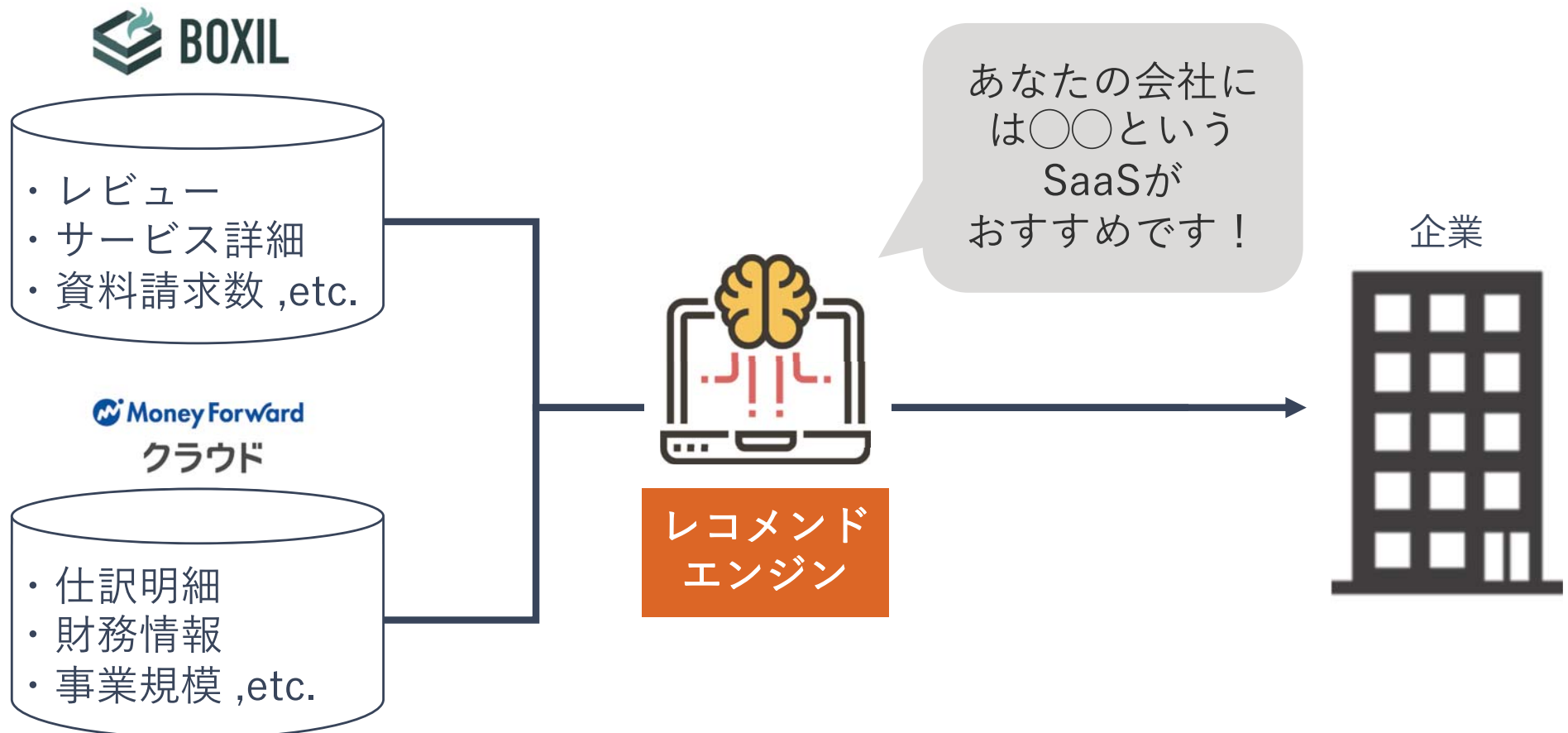
ファクタリングでの利活用検討

2019年8月よりファクタリングサービスを開始



経営支援での利活用検討

『BOXIL』『マネーフォワードクラウド』のデータを活用し、SaaSレコメンドエンジンの開発を検討。今後は出金データの詳細化も重要に。



* 上記レコメンドエンジンの提供は、データ利用の許可を取得したユーザー企業のみを対象とする。

金融EDI情報の本格利用
に向けての課題

金融EDI情報の本格利用に向けての課題<1/2>

1

金融EDI情報の標準フォーマットの浸透

2

会計周辺領域サービスのクラウド化推進

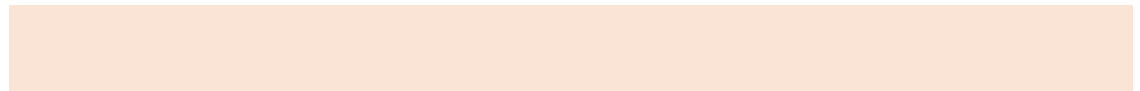
3

クラウド会計のさらなる浸透

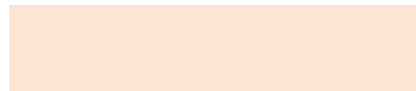
金融EDI情報の本格利用に向けての課題<2/2>

各種サービス利用率のファネルイメージ

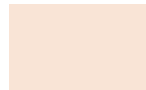
中小企業



インターネット
バンキング利用率



クラウド会計利用率



会計周辺領域（受発注等）
SaaS利用率



金融EDI利用率

